

3月の安全運転のポイント 平成24年3月号

平成23年の交通事故による死者数は4,611人で、1年連続の減少となるとともに、発生件数および負傷者数も7年連続で減少し、発生件数は平成4年以来19年ぶりに70万件を下回りました。今月は平成23年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「平成23年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締り状況について」による)

平成23年の交通事故発生状況	発生件数*	691,932件 (前年比 - 33,841件 - 4.7%)
	死者数*	4,611人 (前年比 - 252人 - 5.2%)
	負傷者数	854,489人 (前年比 - 41,719人 - 4.7%)
*発生件数とは、人身事故件数をいい、物損事故は含まれません。		
*死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。		

65歳以上の高齢者の死者数が半数を占める

年齢層別に死者数をみると、65歳以上の高齢者が2,262人で(図1)、全体の49.1%とほぼ半数を占めています。

65歳以上の高齢者の死者数を状態別にみると、歩行中が1,121人(49.6%)で最も多く、次いで自動車乗車中が56人(24.8%)、自転車乗用中が375人(16.6%)となっています(図2)。

高齢歩行者や高齢運転者標識を付けた車、高齢者の乗った自転車には十分に目を配り、保護する気持ちをもって運転しましょう。

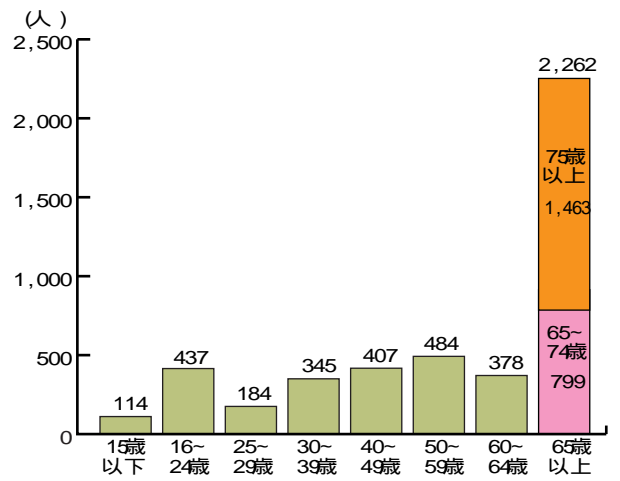


図1 年齢層別死者数 (平成23年)

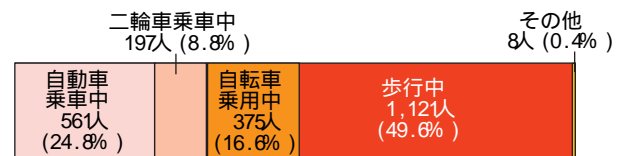


図2 65歳以上の状態別死者数 (平成23年)

死者数・死亡事故件数とも夜間が昼間を上回る

死者数を昼夜別にみると、昼間が2,251人(48.8%)、夜間は2,360人(51.2%)と夜間が昼間を上回り、死亡事故件数についても、昼間が2,183件(48.7%)、夜間は2,297件(51.3%)と夜間が上回っています(図3)。

夜間が昼間を上回るのは、死者数では平成19年以来4年ぶり、死亡事故件数については平成18年以来5年ぶりのことです。夜間は危険の発見が遅れやすくなりますから、スピードを控えめにして走行しましょう。

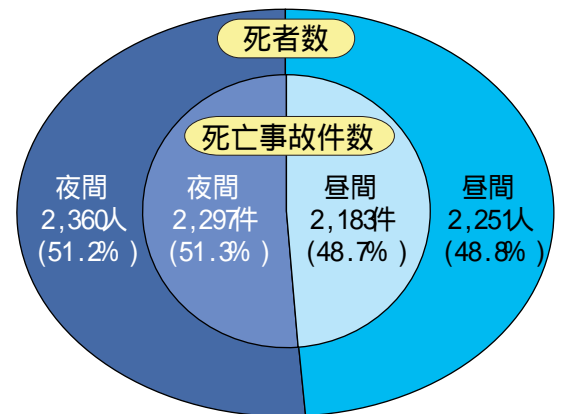


図3 昼夜別死者数と死亡事故件数 (平成23年)

「漫然運転」や「脇見運転」などの
「安全運転義務違反」が上位を占める

原付以上運転者が第1当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、「漫然運転」が733件(17.8%)で最も多く、次いで「脇見運転」648件(15.7%)、「安全不確認」429件(10.4%)となっており、「安全運転義務違反」による死亡事故が上位を占めています(図4)。

走行中はわずかな油断や気の緩みが重大事故につながります。ハンドルを握ったら気を引き締めて、運転に集中しましょう。

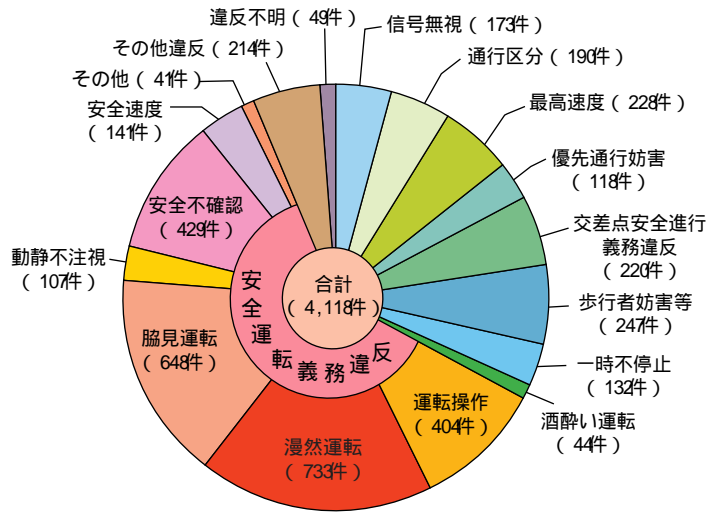


図4 原付以上運転者(第1当事者)の法令違反別死亡事故件数(平成23年)

原付以上運転者が第1当事者となった死亡事故では、工作物衝突が出会い頭衝突よりも多い

原付以上運転者が第1当事者となった死亡事故件数を事故類型別にみると、車両相互が1,785件(43.3%)、人対車両が1,473件(35.8%)、車両単独が840件(20.4%)となっています(図5)。

最も多いのは「人対車両」の「横断中」で、次いで「車両単独」の「工作物衝突」、「車両相互」の「出会い頭衝突」の順となっており、「工作物衝突」が「出会い頭衝突」を上回っています。「工作物衝突」では「運転操作不適」によるものが最も多くなっていますから、運転操作の基本をもう一度確認し、的確な運転を心がけましょう。

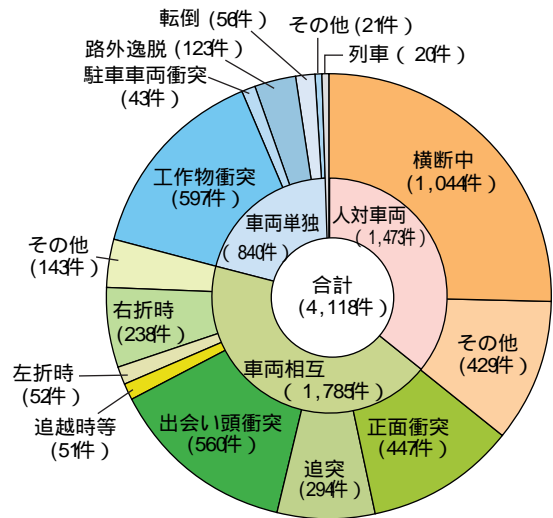


図5 原付以上運転者(第1当事者)の事故類型別死亡事故件数(平成23年)

「交差点」と「交差点付近」で死亡事故の半数近くが発生している

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,600件(35.7%)、交差点付近が563件(12.6%)を占め、双方を合わせると48.3%となり、半数近くに達します(図6)。

交差点とその付近は減速、停止、発進、右折、左折などさまざまな運転行動が要求されるだけでなく、先行車や後続車、対向車、自転車、歩行者など注意すべき対象も数多くあります。周囲の状況によく目を配るとともに、できるかぎり安全な速度と方法で慎重に運転しましょう。

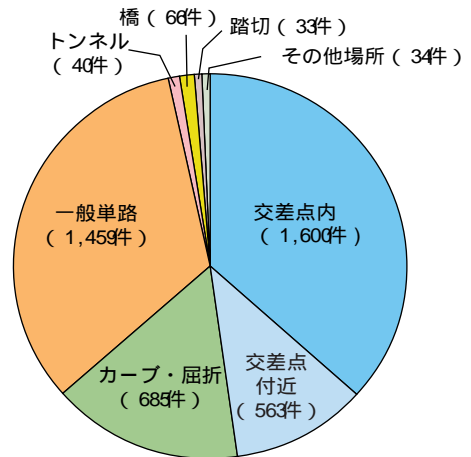


図6 道路形状別死亡事故件数(平成23年)

「ご相談・お申込先」